チョイス　　10月1日掲載

Choiceの
実験天国

気になる“旬”をググっと深掘り!

今また人気急上昇。本当に飛ぶのか? 高反発ドライバーの真実を追え!

2008年以前は、高反発ドライバーが当たり前だった。

高反発ドライバーへの関心を感じたのは、取材当日のことだ。その日、現場に着くと2人のテスター、カメラマン、そしてコース配人までも、「高反発って、本に飛ぶの?」と、質問してきたのだ。

そもそも、この高反発ドライバーの規制が始まったのは2008年のことだ。ゴルフルールを統括するR&Aは、クラブの進化にともない、ゴルファーの飛距離が格段に伸びたことで、本来のゴルフコースへの対応、ゴルフの本質を損なう恐れがあるとするUSGA(全米ゴルフ協会)に同調。プロツアー、アマチュア競技においては「クラブの反発係数が0・83を超えてはいけない」としたのだ。もともとクラブの規則にはスプリング効果をもたせてはならない、というものがあったが、これに所定の計測

[実験内容]
高反発ドライバーと、ルール適合ドライバーの飛距離の差を弾道測定機で計測。

ヘッドスピードの違う2人のアマチュアが高反発ドライバーの飛距離アップを弾道測定器「トラックマン」で検証。実験で使用したボールは「ツアーB330RX」(ブリヂストンゴルフ)

高反発ドライバーの真実を追え!

ルール違反と知りつつも、ホントに飛ぶの? との疑いも。気になる旬の“高反発ドライバー”4モデルを検証!

PRGR(プロギア)
スーパーエッグ(金エッグ)
フェースだけでなく、ヘッドの形、構造も、高反発は特別!

新作のエッグシリーズはルール適合のニューエッグ(赤エッグ)と、高反発スーパーエッグ(金エッグ)の2タイプを発売。金エッグでは、フェースだけでなく、ヘッド形状、クラウンの構造も適合モデルとは違う、より“たわみやすい”専用設計にしている。金エッグ1本10万8000円(M40/SR 10・5度、M37/R 10・5度 11・5度、M35/R2 10・5度 11・5度、M30/L 11・5度)

ROMARO(ロマロ)
Ray αゴールド
薄いクラウンで弾力性の高いスプリング効果を!

ベテラン好みの美しい形状で人気のロマロの『Ray アルファー』。高反発の『Rayアルファー ゴールド』では、薄いクラウンとフェースの高い反発性能により、ヘッド全体の“スプリング効果”を高めた。Rayアルファーゴールド1本13万8240円(10・5度 S、SR、R)

GLOBERIDE(グローブライド)
GⅢシグネチャー
特殊なフェース素材によって、ルールを大きく超えた反発力を!

高い強度を誇るチタン素材「ニューハイパーチタン」をフェースに使ったことで、ルール上限となる反発係数0.83を大きく超えた0.875を実現。また前作と比べて、重心角を大きくした(24度を26度に)ことで、つかまりの良さもアップ。1本21万6000円(SR10度、R10度)

WORKS GOLF(ワークスゴルフ)
ハイパーブレード シグマ プレミア
シニア世代のために開発された軽量タイプの高反発!

「ドラコン日本一」でおなじみのワークスゴルフがシニア世代のために開発した高反発ドライバー。超高反発素材「DAT55G」を採用したフェースと、40グラム前半の軽量シャフトでシニア世代が飛ばせるクラブだ。1本9万7178円(S、SR、R、R2いずれも9・5度、10・5度あり。プレミア飛翔極シャフト)

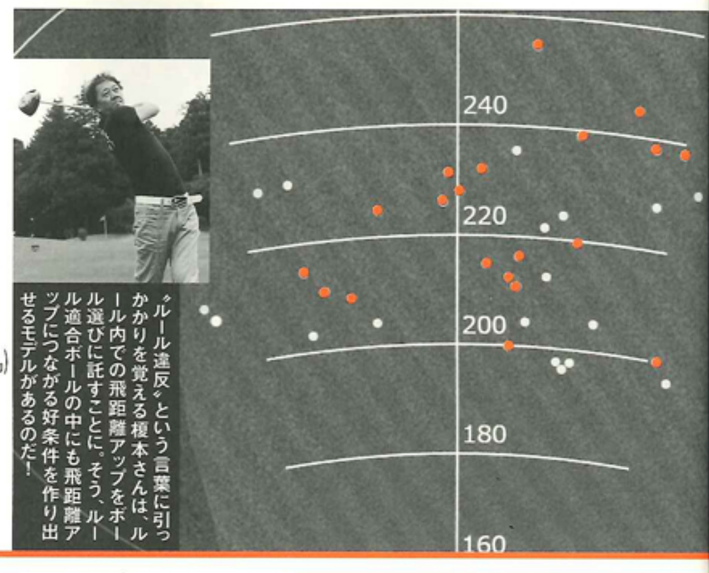
取材・構成／Position ZERO　撮影／相田克己　取材協力／武蔵丘GC、グレンオークスCC、トラックマンジャパン

Choiceの
実験天国

HS39m/s 榎本さんの打球結果

ボクはボールを替えてみます!

“ルール違反”という言葉に引っかかりを覚える榎本さんは、ルール内での飛距離アップをボール選びに託すことに。そう、ルール適合ボールの中にも飛距離アップにつながる好条件を作り出せるモデルがあるのだ!

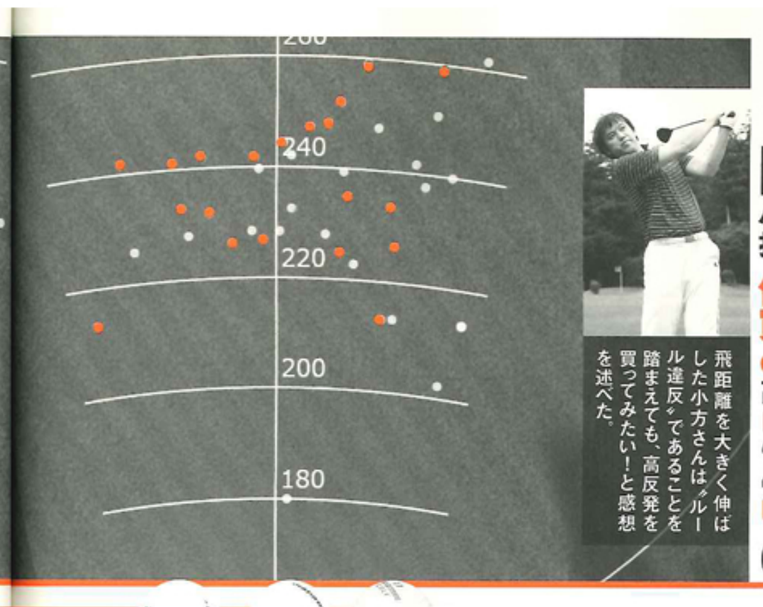


	高反発(各モデル5球 計20球の平均)	SLE適合(各モデル5球 計20球の平均)
【飛距離】	231.5y	220.7y
【初速】	58.4m/s	56.9m/s

HS44m/s 小方さんの打球結果

僕は“高反発”買います!

飛距離を大きく伸ばした小方さんは、“ルール違反”であることを踏まえても、高反発を買ってみたい!と感想を述べた。



	高反発(各モデル5球 計20球の平均)	SLE適合(各モデル5球 計20球の平均)
【飛距離】	243.2y	228.8y
【初速】	60.8m/s	58.2m/s

パワーヒッターほど、高反発効果が期待できる意外な結果。

最後は徹底的な打ち比べだ! 前ページの小方さんにくわえ、ヘッドスピード40m/s未満の榎本英樹さん(45歳)に、高反発とルール適合を1人計40球打ち込んでもらった。

ヘッドスピードが違う2人に、4メーカーの高反発とルール適合を打ち比べてもらった。その結果が上の打球結果だ。それを見ると、より効果が高いのはヘッドスピードの速い小方さんの方だった。平均で約15ヤードは高反発の方が飛んでいた。話を聞くと、「こんなに飛ぶとは思いませんでした。すぐ買います!」と興奮していた。

一方、榎本さんもSLE適合モデルが220ヤードなのに対して、高反発になると230ヤードまで距離を伸ばしたが、購入するかどうかを聞くと「予算が厳しいのと、みんなに違反と思われるのが……」とちょっと尻込み。そこで、ボールを替える実験もしてみたのだが、実はボールを替えるだけでも飛距離アップの効果は大きい。今回、実験したのはスピン系の『B330 RX』、超ソフトでロースピンタイプの『プリヂストン レディ』、そして初速アップを追求した『ジョーカー』の3タイプだが、榎本さんは『ジョーカー』の時だけ、初速アップと低スピンが高バランスになって、飛距離を伸ばすことができた。「ボールくらいなら、すぐ買えます」と、榎本さんはまずボールで飛距離を買う作戦に出るようだ。

結果からいえば、高反発ドライバーを使えば飛距離は伸びるのは確か。とくに広い反発エリアを有した今どきの“高反発”ならなおさらだ。「ルール違反」であることを踏まえた上で、さてどうするか? 本誌としてはボールを替えてみるだけでも飛距離は変えられると思うが、いかがだろうか。

※データは10球の平均値

	【ジョーカー】	【B330RX】	【レディ】
【飛距離】	235.9y	227.5y	226.5y
【初速】	63.8m/s	62.5m/s	61.9m/s
【スピン】	2855rpm	3195rpm	2378rpm

高反発 VS SLE適合 飛んだのはどっちだ!?

【実験方法】
2人のテスターに、各メーカーの高反発とルール適合を10球ずつ打ってもらい、その平均の飛距離差を調べた。

プロギア
スーパーエッグ
(金エッグ・高反発)
VS
ニューエッグ
(赤エッグ・SLE適合)
+11.5yard

とくに小方さんが「今までこんな飛んだことがない」と感動したのが金エッグ。普段の飛距離は230ヤード前後という小方さんだが、260ヤード前後まで飛んだ打球もあった。

ワークスゴルフ
ハイパーブレード シグマプレミア
(高反発)
VS
ハイパーブレード シグマ
(SLE適合)
+11.8yard

こちらは、榎本さんが「インパクトの手応えがスゴイ」と語ったとおり、高反発は力強い打球が目立った。やや低めの打球が目立っていた榎本さんだが、このドライバーでは高弾道のドローを連発。

ロマロ
Ray αゴールド
(高反発)
VS
Ray α
(SLE適合)
+10.8yard

2人とも「高反発モデルの中で、打感、打球音が一番良かった」と語ったのが『Ray αゴールド』だ。飛距離も、適合モデルと比べて、2人とも10ヤード以上伸びていた。

グローブライド
GⅢシグネチャー
(高反発)
VS
オノフAKA
(SLE適合)
+10.5yard

明らかなボール初速のアップを感じたのが、この『GⅢシグネチャー』だ。小方さんは、「シャフトに合わせて軽く振っても、飛んだ」と絶賛。こちらはシニア世代にオススメかも!

COLUMN 素朴なギモン②

ボールを替えれば“適合”でも飛距離アップ

【実験内容】
HS39m/sの榎本さんに、愛用ドライバーで3タイプのボールを打ってもらい、その飛距離を計測。

ドライバー比較では、ミスショットが多く、高反発ドライバーの飛距離アップが小方さんに比べて小さかった榎本さん。しかし、このボール比較実験ではその効果を大いに感じる結果となった。とくに初速アップ効果を謳った『ジョーカー』では、高反発ドライバーを超える飛距離を達成! ルールにも反していないし、これはいい! と絶賛だった。

今どき高反発ドライバーはやっぱり飛ぶ。ルールに従うかどうか、思案のしどころだ

【結論】